

バイオ・ライフサイエンス



キーワード：健康保険組合 データヘルス計画 レセプト 生活習慣病

保険者保有データの活用

農学部 食品栄養学科 教授
小川 俊夫 OGAWA Toshio

研究の内容

データヘルス計画の一環として、レセプトと健診・検診結果を活用した医療保険加入者の健康づくりと疾病の早期発見・早期治療の実現

背景

データヘルス計画により、保険者はレセプトや健診・検診など保有データの活用が求められています。多くの保険者では、保有データを充分には活用できていないのが現状です。メタボ対策に積極的に取り組んでいる保険者は多いものの、がん対策を行っている保険者はまだ少数です。

目的

保険者とともに、保険者が保有しているデータを見直し、その活用について考えます。

保険者における保健事業の見直し、健康づくり活動の実現を目指します。

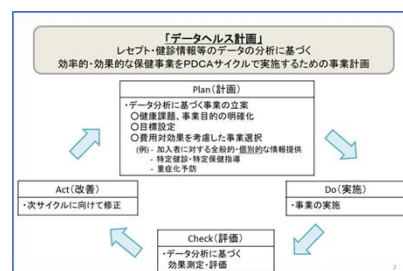
保険者協議会、地域医療構想などに活用できるエビデンスを創出します。

主な成果

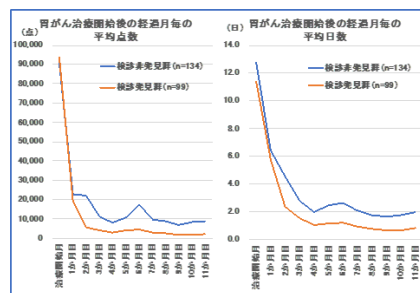
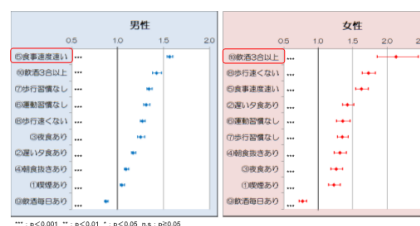
保険者データを用いた分析用DBの構築とデータ解析を、保険者施設内で実現するスキームを確立しました。

全国健康保険協会（協会けんぽ）や健保組合などで、本研究のスキームを用いた保健事業の見直しや健康づくり活動を実施しています（文科科研費研究など）。

レセプトを用いたがん患者の正確な特定手法を開発し、実用化の検討をしています（厚労科研費研究）。



データヘルス計画（厚労省資料より）



産学連携・社会連携へのアピールポイント

【保険者・医療機関・検診機関の連携強化】保険者データを活用することで、保険者・医療機関・検診機関との連携の強化につながり、住民の健康づくりとがんなど疾病の早期発見・早期治療の実現を目指します。

【地方自治体との連携】地域住民の健康状態の把握と向上、さらに医療サービスの地域連携の実現に資するエビデンスを提供します。

研究室名（公衆衛生学研究室）

URL : <https://www.setsunan.ac.jp/gakubu-in/nogaku/>

